科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語Ⅰ	花尻　奈緒子	演習	2		4	4

授業概要 授業目的	中国語は中国以外にもアジアの各国・地域で公用語とされ、また第二外国語としても世界中に学習者を持つ言語です。この授業では、中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語、中国語の背景にある文化や社会についても学びます。
到達目標	中国語で簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになり、単純な文を聞いて意味を理解できるようになることを目標とします。

回	学習内容	回	学習内容
1	ガイダンス・声調	16	前期の復習・形容詞述語文
2	単母音と複母音	17	年齢の言い方とたずね方・量詞
3	子音	18	数をたずねる疑問詞・比較の表現
4	鼻母音・基礎発音総復習	19	中国の通貨・値段のたずね方
5	軽声・声調の変化	20	年月日と曜日・時刻の表現
6	アール化・人称代名詞	21	助動詞「想」・連動文
7	「是」述語文①	22	存在文
8	「是」述語文②・名前の言い方答え方	23	前置詞①・反復疑問文
9	動詞述語文	24	完了形
10	疑問詞疑問文	25	文末につける「了」・前置詞②
11	副詞「也」・省略疑問文	26	助動詞②・助動詞③
12	指示詞・助詞「的」	27	二重目的語をとる動詞
13	副詞「都」・語気助詞	28	進行形・動詞「喜歓」
14	数字・所有を表す「有」・程度副詞	29	時量補語
15	前期の総復習	30	後期の総復習

予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。
教科書	『シンプルチャイニーズ　北京文法篇』（朝日出版社）
成績評価	出席時の取り組みの姿勢 50%、前・後期の最終回で行う期末試験 50%で成績評価を行います。
実務経験	
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語Ⅰ	今本　幸平	演習	2		4	4

授業概要 授業目的	初めてドイツ語を学習する人のための科目です。文字（アルファベット）、単語の読み方から始まり、簡単な文の組み立て方や読解を学びます。 教員が文法等の説明をした後、自分で練習問題を解き、答えを口頭で発表することで、文法と発音を身につけます。講義を聴いて板書をノートに書きとるだけという受け身の姿勢ではなく、説明に基づいて自分でやってみて、分からないことは自ら調べる、または質問するという、能動的な受講態度が必要です。
到達目標	①ドイツ語の単語や簡単な文（ドイツ語検定試験５級程度）を音読できる。 ②簡単なドイツ語の文（ドイツ語検定試験５級程度）を理解し、自分でも作ることができる。

回	学習内容	回	学習内容
1	ガイダンス、アルファベット	16	前期の復習
2	アルファベットと単語の読み方	17	第４課　定冠詞の仲間
3	単語の読み方（挨拶、数字など）	18	第４課　練習問題
4	第１課　文の作り方（動詞について）	19	第４課　不定冠詞の仲間
5	第１課　重要な動詞、語順の原則	20	第４課　練習問題、会話文
6	第１課　練習問題、会話文	21	第５課　名詞の複数形
7	第２課　名詞について（名詞の性別）	22	第５課　人称代名詞
8	第２課　名詞の「格」について	23	第５課　練習問題、会話文
9	第２課　重要な動詞	24	復習と中間テスト
10	第２課　練習問題、会話文	25	第６課　前置詞の使い方
11	復習と中間テスト	26	第６課　練習問題、会話文
12	第３課　不規則動詞	27	第７課　形容詞の使い方
13	第３課　不規則動詞の練習問題、命令形	28	第７課　練習問題、会話文
14	第３課　練習問題、会話文	29	後期の復習
15	前期の復習	30	前期・後期の復習

予習内容 復習内容	予習：学習している「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、音読する。 復習：授業で出てきた文を音読する。学習した個所の練習問題（宿題）を解き、音読する。
教科書	①『PANORAMA Deutsch（パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール）』、白水社 ②独和辞典（４月中は使用しない。詳細は初回講義で説明）※５月以降は必ず①②両方持参すること
成績評価	前期試験 40%、後期試験 60%程度の割合で成績を出す。授業中に行う小テスト、中間テスト等の点数は参考程度とする。前・後期とも、遅刻・早退した回を除いて 10 回以上講義に出席しないと評価対象外となる。
実務経験	
その他 特記事項	体育の授業で競技のルールを習っただけでは、その競技ができるようにならないのと同じで、外国語も説明を聴くだけではなく、自分でやってみなくては身につきません。その時、間違えることを気にする必要はありません。むしろ間違えることを通じて学ぶというつもりで取り組んでください。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英会話	マイルズ・オブライエン	演習	2		4	4

授業概要 授業目的	このコースでは、さまざまな場面での日常英語を練習し、すでに知っている英語をより有用なものにできるようにすることを目的としています。前期は、観光や留学で海外に行くときや、外国人旅行者に日本のことを説明するときに必要な英語を学びます。後半では、英語圏での日常生活について学びます。教科書は使用せず、リスニングを含むオンライン教材（学外でも PC、タブレット、スマートフォンで使用可能）を両学期とも基本的に使用します。
到達目標	このコースでは、言語学習の概念・機能的アプローチに基づいたオンライン教材を使用して、実際のさまざまな状況でコミュニケーションのために英語を使用する能力を高めることを目的とする。

回	学習内容	回	学習内容
1	Introduction. Practice with computer system	16	Introductions. Wh- questions & answers
2	Flight, immigration, customs	17	Daily routines - How often?
3	Money, taxi, bus, hotel	18	Can / Can’t
4	Restaurants and eating out	19	Rules, Instructions (do / don't)
5	Meeting people	20	Future planning - will / going to
6	Simple medical problems	21	Telling about yourself
7	Talking about Japan 1	22	Talking about the past
8	Talking about Japan 2	23	Changes
9	College life	24	Asking about others
10	Money, shopping, security	25	Many uses of -ING verbs
11	Asking for and giving directions	26	Likes and dislikes
12	Sightseeing, the Grand Canyon	27	Negative and tag questions
13	Home stay	28	Preferences - Which? What?
14	Getting help – pharmacy, having something stolen	29	Shopping and prices, understanding money amounts
15	Review of the course so far	30	Overall course review

予習内容 復習内容	予習は、毎週次回のトピックについて考えて、関係のありそう単語や表現を少し調べておく。 復習は、オンライン教材で自由に学外でも練習がいつでもできる。
教科書	教科書は使用せず、オンライン教材を使う
成績評価	オンライン教材の使用結果記録 50%、筆記試験 50% 通年 11 回以上欠席をした場合、試験の受験資格はない。
実務経験	
その他 特記事項	

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語講読	村井　美代子	演習	2		4	4

授業概要 授業目的	世界のメディアから発信された、政治、経済、文化、科学、スポーツなどの様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2回の授業で読了する予定。 1ユニット400～500語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには、内容理解度を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでの英語学習の基礎の上に、英文の内容を正確に把握できる実践的な読解力を身に付けることを目的とする。
到達目標	①400～500語程度の英文内容を速く正確に把握できる実践的な読解力をつける。 ②語彙や文法、イディオムに関する知識を確認し、実践で活用できる応用力をつける。

回	学習内容	回	学習内容
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）	16	前期試験返却・Unit 10：フランス大統領選挙
2	Unit 1：気候変動の影響	17	Unit 11：人気の職種
3	Unit 1・Unit 2：ノーベル物理学賞	18	Unit 11・Unit 12：マッチング・アプリ
4	Unit 2：ノーベル物理学賞	19	Unit 12：マッチング・アプリ
5	Unit 3：オリンピック選手と政治	20	Unit 13：中国で離婚率と結婚率低下
6	Unit 3・Unit 4：プーチンのウクライナ戦争	21	Unit 13・Unit 14：トラック運転手の抗議運動
7	Unit 4：プーチンのウクライナ戦争	22	Unit 14：トラック運転手の抗議運動
8	Unit 5：石油王の資産凍結	23	Unit 15：中国とリトアニアの対立
9	Unit 5・Unit 6：大谷翔平選手	24	Unit 15・Unit 16：有機農法で大惨事に
10	Unit 6：大谷翔平選手	25	Unit 16：有機農法で大惨事に
11	Unit 7：日本の労働組合は男性中心	26	Unit 17：トンガの自然災害
12	Unit 7・Unit 8：シンガポールの死刑反対論	27	Unit 17・Unit 18：ベンガル湾の大洪水
13	Unit 8：シンガポールの死刑反対論	28	Unit 18：ベンガル湾の大洪水
14	Unit 9：富裕国の国民の幸福度	29	Unit 19：トルコの超インフレ
15	Unit 9・Unit10：フランス大統領選挙	30	Unit 19：トルコの超インフレ

予習内容 復習内容	テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。
教科書	『ニュースメディアの英語－2023年度版』（朝日出版）
成績評価	試験（前期と後期に実施）70％ ＋ 平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30％ 前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外とする。
実務経験	
その他 特記事項	

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
情報処理実習Ⅰ	笠　浩一朗	実習	1		4	4

授業概要 授業目的	現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。特に、オフィスソフトは、あらゆる業種で仕事に欠かせないものになっている。本講義では、オフィスソフトに関する基礎知識や基本操作を習得することを目的とする。講義では、アプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組む。
到達目標	本講義では、オフィスソフトに関する基礎知識及び基本操作を習得することを到達目標とする。

回	学習内容
1	情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作
2	Wordの基礎１（各部の名称）とタイピング練習
3	Wordの基礎２（ページ設定、文書入力、スタイル、脚注）
4	Wordの基礎３（表の作成、SmartArtグラフィック）
5	Wordの基礎４（図の作成、ヘッダーとフッター）
6	Wordの基礎５（段組み、数式）
7	Excelの基礎１（入力方法、オートフィル、書式設定）
8	Excelの基礎２（絶対参照と相対参照、関数、グラフ）
9	Excelの基礎３（表計算の応用）
10	PowerPointの基礎（スライドマスタ、入力方法、図表の挿入）
11	最終課題の作成１（最終課題の内容説明、課題のための情報収集）
12	最終課題の作成２（発表資料、配布資料の作成）
13	最終課題の作成３（資料の修正、発表練習）
14	最終課題の発表
15	最終課題の発表と本講義のまとめ

予習内容 復習内容	次回の講義について、教科書を事前に読んで確認しておくこと。 課題は、講義内では完了しないことが多いので、講義外でも課題に取り組むこと。
教科書	「Microsoft Office2019を使った　情報リテラシーの基礎」，近代科学者（ISBN978-4-7649-0601-3）
成績評価	Word課題（20%）、Excel課題（20%）、PowerPoint課題（10%）、最終課題（50%）
実務経験	
その他 特記事項	

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報と社会	笠　浩一朗	講義	2		4	4

授業概要 授業目的	講義は、以下の三つの内容で構成されている。一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ICT の発達により誰もが簡単に情報を取得・発信できる社会になっている。その一方で、個人情報の流出、ネット上での誹謗中傷などの新たな問題が発生している。他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごすための方法を解説する。二つ目は、言語処理技術に関することである。近年、言語処理技術を活用したシステムは身近に利用できる状況にあり、そのシステムの仕組みを紹介する。三つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。
到達目標	本講義は、現在の情報社会で求められる「情報に関する知識」と「情報倫理」を習得することを到達目標とする。

回	学習内容
1	インターネット概論
2	ネットワーク利用におけるマナー
3	個人情報とプライバシ
4	電子商取引
5	知的財産権・メディアリテラシ
6	ネットワーク不法行為
7	情報技術とセキュリティ
8	情報倫理とリテラシ
9	言語処理技術（文字コード、形態素解析）
10	言語処理技術（構文解析、意味解析）
11	言語処理技術を用いたシステム（機械翻訳）
12	言語処理技術を用いたシステム（対話システム、情報検索）
13	システム開発とマネジメント
14	システム構成と故障対策
15	業務改善と分析手法

予習内容 復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくること。 前回の復習の小テストを毎回実施するので、復習しておくように。
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。
成績評価	毎回の小テスト（100%）
実務経験	
その他 特記事項	

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育講義	石川　拓次	講義	2		2	4

授業概要 授業目的	本講義では、身体のしくみを知り、効率的に運動することの重要性を理解し、身体活動を通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけることの必要性について学ぶ。さらに、スポーツ文化に親しみ、スポーツが多文化共生とどのように関わっているかペア討議を通して理解することを目的とする。
到達目標	・健康・疾患と生活習慣の関係について理解する。 ・トレーニングに関する知識を理解する。 ・スポーツイベントやスポーツに関する諸問題について理解する。

回	学習内容
1	第１回　オリエンテーション・コンセンサスゲーム
2	第２回　健康とは？
3	第３回　身体の仕組み（内科編）
4	第４回　内科的疾患①生活習慣病
5	第５回　内科的疾患②がん・感染症
6	第６回　身体の仕組み（運動器編）
7	第７回　トレーニングと健康（骨格筋と運動）
8	第８回　トレーニングと健康（呼吸循環器と運動）
9	第９回　こどもとスポーツ
10	第 10 回　高齢者とスポーツ
11	第 11 回　女性とスポーツ
12	第 12 回　スポーツ外傷・障害の基礎
13	第 13 回　スポーツと栄養
14	第 14 回　スポーツに関わる諸問題
15	第 15 回　スポーツイベント

予習内容 復習内容	各講義ごとに出される講義内容に関連した事前課題および事後課題に取り組み提出を行う。
教科書	指定しない
成績評価	定期試験（筆記）試験は行わない。 課題レポート（50%）、授業時の提出物(50%) 評価基準：課題レポートは受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのものである。授業時の提出物は授業内容を踏まえて的確に自分の考えを記述しているかを評価する。
実務経験	
その他 特記事項	

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育実技	石川　拓次	講義	1		2	4

授業概要 授業目的	様々な球技、レクリエーションゲームに親しみ、スポーツの楽しさを体感し、その特性を理解する。また、運動やトレーニングを通して、自らの健康管理や体力作りの方法を習得するとともに、運動を習慣化する態度を身につける。さらにスポーツを通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけ、自らの人生におけるスポーツの意義について受講生全体でディスカッションを行い、生涯スポーツの基礎を作る。
到達目標	①健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和を図ることができる。 ②それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動に参加することができる。 ③生涯スポーツを自主的にプラニングする能力と態度を養うことができる。

回	学習内容
1	オリエンテーション・体力測定
2	バスケットボール（1）　基本動作（パス, ドリブル, シュート）
3	バスケットボール（2）　総当たり戦 1
4	バスケットボール（3）　総当たり戦 2
5	バレーボール（1）　基本動作（アンダー・オーバーハンド）
6	バレーボール（2）　総当たり戦 1
7	バレーボール（3）　総当たり戦 2
8	卓球（1）基本的なストローク
9	卓球（2）総当たり戦 1　シングルス
10	卓球（3）総当たり戦 2　ダブルス
11	ニュースポーツ（1）インディアカ
12	ニュースポーツ（2）インディアカ
13	バドミントン（1）　基本的なストローク
14	バドミントン（2）　総当たり戦 1
15	実技試験・体力測定

予習内容 復習内容	授業内に出す課題について、毎回２時間程度、インターネットや図書で調査し、レポートにまとめておくこと。
教科書	指定しない
成績評価	定期試験（筆記）は行わない。 授業への積極的態度　30%　体力測定　40%　レポート　30% 評価基準：体力測定は受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのテストである。レポート課題は、授業内容を踏まえて的確に自己表現できているかを評価する。
実務経験	
その他 特記事項	運動に適切なウエア、シューズを準備すること。 体調管理には十分に注意すること。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生命科学	狩野 幹人	講義	2		2	1,4

授業概要 授業目的	生命科学（Life Science）は、21 世紀の科学技術を担う重点分野の１つである。2003 年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。遺伝子外の領域に着目したエピジェネティクス、免疫などの生体防御機構をはじめ、その解明が待たれる研究は現在も世界で継続されている。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学・生命科学の知識が必要となる。 本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。 「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加えることにより、生物学の基本的な枠組みを理解してもらいたい。
到達目標	①地球上の生物全体に対するマクロな視点と、生物個々の現象に対するミクロな視点を持つ。 ②生物学、生命科学の成り立ちについて、物理学や化学の知識も使いながら、歴史的に捉えられる。 ③生物の基本構造である「細胞」内に存在する「分子」の機能・役割を科学的に理解、説明できる。

回	学習内容
1	ガイダンス（科学とは？自然科学とは？生命科学とは？を中心に）
2	細胞の構造
3	細胞の形質、機能
4	細胞の活動
5	タンパク質の役割
6	多細胞生物への展開（１）－細胞間の情報交換
7	多細胞生物への展開（２）－体細胞分裂と DNA の複製
8	免疫システム（１）－生体防御機構の概要
9	免疫システム（２）－T 細胞と細胞性免疫
10	免疫システム（３）－B 細胞と体液性免疫
11	細胞の再生と死
12	環境の認識、調節
13	生物の進化と多様性、生物多様性条約とは
14	生命科学と知的財産（１）－知的財産とは
15	生命科学と知的財産（２）－生命科学の発展と知的財産の役割

予習内容 復習内容	予習：教科書の該当ページや図表に目を通すなど。 復習：ノートを整理するなどし、講義内容を暗記するのではなく、理解すること。
教科書	「基礎から学ぶ生物学･細胞生物学（第 4 版）、和田勝、羊土社（2020）」を教科書として用いる。また講義において、参考文献を紹介するほか、必要な補足資料を随時配布する。
成績評価	①毎回出席をとる（講義終了時に、講義で理解したこと、感想・質問を記入した出席票を提出してもらう）。出席率が 3 分の 2 以上の者を成績評価の対象とする。 ②その上で、レポート（２回を予定）により成績を評価する。
実務経験	2022 年度から「ナショナルバイオリソースプロジェクト（文部科学省）」における分担機関の課題管理者として従事。グローバルな視点での生物、遺伝資源、それらの多様性についても解説する。
その他 特記事項	単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
自然と科学	狩野　幹人	講義	2		2	4

授業概要 授業目的	1985 年アメリカ発のプロパテント（知的財産，特に特許重視）を経て、2004 年からは、アメリカやヨーロッパ、日本をはじめとするプロイノベーション（イノベーション重視）の時代となった。イノベーション（創造的破壊と新結合、価値形成）の形態は多種多様であるが、その１つは科学・技術に立脚している。 本講義では、「科学」のうち、とくに自然を対象とした「自然科学」とは何か？について、その歴史も含めて焦点をあてる。また「科学」「自然科学」と「技術」との関係について、「技術」とは何か？も含めて解説する。さらに「科学・技術」を保護するための知的財産や，「科学・技術」の発展の基盤となる「倫理」との関係についても解説する。
到達目標	①「科学」「技術」の本質およびそれらの相互的関係について理解するとともに、「科学・技術」への発展について、歴史的に捉えられる。 ②「科学・技術」およびそれを保護する知的財産がイノベーションに果たす役割について理解する。 ③「科学・技術」に関係する法令や倫理について理解する。

回	学習内容
1	ガイダンス（科学とは？科学の誕生）
2	科学と自然科学
3	近代科学のはじまりー宗教と科学、中世ヨーロッパ、大学
4	技術とは（１）ー科学と技術の関係を中心として
5	技術とは（２）ー産業革命後の科学・技術の発展
6	知的財産とは
7	科学・技術と知的財産（１）ー科学・技術の発展と知的財産の役割
8	科学・技術と知的財産（２）ー第三次産業革命（IT 革命）後の知的財産の役割
9	イノベーションとは
10	科学・技術とイノベーション（１）ーイノベーションと技術革新
11	科学・技術とイノベーション（２）ープロイノベーションとは？
12	日本における科学・技術の発展とイノベーション
13	科学・技術と経済安全保障
14	科学・技術と倫理（１）ー法と倫理、研究・開発における法令遵守
15	科学・技術と倫理（２）ー研究・開発におけるリスクマネジメント

予習内容 復習内容	予習：講義において紹介する文献などに目を通すなど。 復習：ノートを整理するなどし、講義内容を暗記するのではなく、理解すること。
教科書	教科書は使用しない。必要な資料を、講義の中で随時配布する。参考文献としては、 「科学・技術と現代社会 上･下、池内了、みすず書房（2014）」「イノベーションのジレンマ、C. M. クリステンセン、翔泳社（2001）」などが挙げられる。
成績評価	①毎回出席をとる（講義終了時に、講義で理解したこと、感想・質問を記入した出席票を提出してもらう）。出席率が 3 分の 2 以上の者を成績評価の対象とする。 ②その上で、レポート（２回を予定）により成績を評価する。
実務経験	大学の産学連携・知的財産部門において研究と実務に従事する他，大学院においてイノベーションに関する講義や研究指導に従事。知的財産高等裁判所専門委員（知財訴訟），安全保障貿易自主管理促進アドバイザー（経済産業省）も兼務。知的財産や安全保障に関する実例についても解説する。
その他 特記事項	内容の暗記ではなく、理解・考えてもらえるよう工夫したい。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
心理学	高橋　彩	講義	2		2	2,4

授業概要 授業目的	心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学と言われている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介する。心理学の基本的な考え方や、研究方法やその背景などを理解することを目的とする。
到達目標	①心理学の基本的な概念、用語を説明できる。 ②人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できる。

回	学習内容
1	心理学とはどのような学問か
2	知覚（大きさの恒常性、錯視）
3	学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）
4	記憶（短期記憶、長期記憶、記憶の変容）
5	動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）
6	感情（感情の機能、ストレス）
7	パーソナリティ（パーソナリティの調べ方、ビッグ・ファイブ理論）
8	臨床　精神的健康
9	知能（知能検査と IQ）
10	思考(推論、ヒューリスティックス)
11	対人認知（印象形成、対人魅力）
12	発達（遺伝と環境）
13	集団１（社会的促進と抑制、集団規範、同調）
14	集団２（リーダーシップ、態度変容）
15	心理学の応用

予習内容 復習内容	予習：講義中に指示した文献を読む 復習：授業課題で分からなかった部分を調べる
教科書	二宮克美（編著）2017　ベーシック心理学第２版　医歯薬出版　ISBN978-4-263-42223-6
成績評価	定期試験 70%と授業内での課題レポート 30%で評価する。
実務経験	
その他 特記事項	

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境論	古山　歩	講義	2		2	3,4

授業概要 授業目的	我々の生活は地球上に生息する様々な生物とそれらを取り巻く環境によって支えられている。近年、各地で発生する様々な環境問題によって、生態系や生物多様性が脅かされており、早急な対策が求められている。本講義では生態系や生物多様性を脅かす問題について、概要と対策を具体的に解説するとともに、今後の人間社会と生物や環境との関わり方を考える。
到達目標	（1）現在地球上で起きている様々な環境問題とその対策について基礎的な知識を獲得する。 （2）環境問題対策の効果と問題点を理解し、自らの意見を述べられるようになる。

回	学習内容
1	ガイダンス：生態系とそのサービス・生物多様性
2	人類の発展と環境問題の歴史
3	地球温暖化Ⅰ：概要と環境・生物への影響
4	地球温暖化Ⅱ：対策と課題
5	再生可能エネルギーの利点と課題
6	都市開発
7	海洋汚染Ⅰ：公害・富栄養化
8	海洋汚染Ⅱ：海洋プラスチック
9	人為的影響による生物の絶滅とレッドリスト
10	生物の乱獲・混獲
11	外来生物Ⅰ：概要と生態系への影響
12	外来生物Ⅱ：対策・駆除とその課題
13	生物の保護・増殖事業
14	三重県における環境問題
15	まとめ

予習内容 復習内容	予習：現在起きている環境問題について、インターネットやニュースなどで調べる。 復習：配布資料の確認・振り返りを行う。
教科書	なし。講義にて資料を配布する。
成績評価	毎講義終わりに実施する課題：40%　試験：60%
実務経験	
その他 特記事項	

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
差別と人権	伊藤　信也	講義	2		2	1,4

授業概要 授業目的	1. この科目では、基本的人権と差別の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようになっているのか、その歴史と現状について考えていきます。基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることで人権の普遍的な意味を考えたいと思います。 2. また、テーマ別に現代の差別問題についても考えていきます。どのテーマから取り上げるかは講義開始時にお知らせしますが、人種差別、性差別、国籍差別、部落差別、「障害者」差別など、世界と日本の様々な差別問題を取り上げる予定です。
到達目標	①人権思想の歴史を正しく知り、人権概念の基本的知識を身につけること。 ②現代の差別問題の基本的様相を理解すること。 ③「デマ」や「フェイクニュース」に流されず、正確な知識と根拠を知って人権や差別問題と向き合えること。

回	学習内容
1	授業概説：現代社会と人権
2	基本的人権の成立史：トーマス・ホッブズの思想と近代人権概念の誕生
3	基本的人権の成立史：宗教改革と自由
4	基本的人権の成立史：近代的人権の特徴と課題
5	基本的人権の成立史：フランス革命とその批判者たち
6	基本的人権の成立史：人権から取り残された「女性」たちのたたかい
7	基本的人権の成立史：人権から取り残された「植民地」「先住民」の実態
8	基本的人権の成立史：現代の人権思想の到達点と課題
9	現代の差別問題：人種差別の歴史と現在～アメリカの場合～
10	現代の差別問題：「障害者」差別と優生思想～「ナチス」ドイツ、そして日本でも～
11	現代の差別問題：「女性差別」から「ジェンダー平等」へ
12	現代の差別問題：在日外国人差別と「ヘイトスピーチ」規制
13	現代の差別問題：「部落」差別問題の構造
14	現代の差別問題：感染症と差別問題の歴史
15	21 世紀の人権問題への視点を考える

予習内容 復習内容	予習：事前に提示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：プリントの内容を復習する。
教科書	なし。毎回プリントを配布します。必要な資料等もプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。
成績評価	1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は 40%）、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は 40%）、3.積極的な受講姿勢（配点は 20%）
実務経験	
その他 特記事項	講義は可能な限り工夫して進めます。対面授業の場合はドキュメンタリー・ビデオの上映など、映像による資料を随時使用していきますが、遠隔授業になった場合、他の方法でバリエーションを検討したいと思います。人権問題や差別問題に関心のある学生の参加を求めます。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
歴史学	望月　秀人	講義	2		2	4

授業概要 授業目的	西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思います。
到達目標	西洋近代史の大きな流れを理解でき、日本社会との比較や現代とのつながりが理解できる。

回	学習内容
1	ガイダンス：歴史学とは
2	大航海時代と世界の一体化
3	宗教改革と宗派分裂
4	宗教戦争と世俗化
5	中世の封建制
6	中世封建制から近世の「絶対王政」へ
7	「絶対王政」の意義と限界
8	フランス革命の勃発
9	「市民革命」と近代国家
10	革命とナショナリズムの時代
11	工業化とその影響
12	第一次世界大戦の衝撃
13	戦後処理方法の変化
14	大恐慌とファシズム
15	近代という時代について

予習内容 復習内容	予習内容は、新聞等で時事問題への関心をもつこと。あとは、授業内容の復習をしてください。
教科書	テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。
成績評価	試験 60%、レポート 40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。6 回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。
実務経験	
その他 特記事項	言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにしてください。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
哲学	吉本　陵	講義	2		2	1,4

授業概要 授業目的	現代の科学技術は私たちの社会に大きな影響を与え続けています。この授業では科学技術が私たちの（誕生・死を含む）生命に与える影響に焦点を当て、科学技術時代における生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みます。
到達目標	科学技術が私たちの（誕生・死を含む）生命に対する影響に関する論点を理解すること。 上記の論点について自ら文献資料を調べ、考えたことを論述できるようになること。

回	学習内容
1	ガイダンス＆イントロダクション
2	哲学的・倫理学的なものの考え方（１）功利主義と義務論
3	哲学的・倫理学的なものの考え方（２）理論を学ぶ意味
4	現代社会と動物の問題（１）ペットについて
5	現代社会と動物の問題（２）家畜について
6	現代社会と動物の問題（３）肉食について
7	出生前診断と優生思想（１）医療倫理の原則
8	出生前診断と優生思想（２）出生前診断の歴史と現状
9	出生前診断と優生思想（３）旧優生保護法と内なる優生思想
10	脳死臓器移植の倫理（１）脳死について
11	脳死臓器移植の倫理（２）脳死臓器移植について
12	未来に対する責任（１）核燃料サイクルの問題
13	未来に対する責任（２）高レベル放射性廃棄物処分の経緯と現状
14	未来に対する責任（３）高レベル放射性廃棄物処分の課題
15	未来に対する責任（４）「100,000 年後の安全」は可能か？

予習内容 復習内容	予習：学習内容に記載されている用語を調べておくこと。 復習：適宜配布する参考文献表を参考にしながら、毎週配布する講義資料の振り返りをすること。
教科書	教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。
成績評価	定期試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。
実務経験	
その他 特記事項	各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
文学Ⅰ	今本　幸平	講義	2		2	4

授業概要 授業目的	この講義ではヨーロッパの有名な文学作品を取り上げます。時代も国も、私たちからは遠く離れた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は、現代の私たちにも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手がかりもなく読んでもピンとこない部分も出てくると思います。講義では、適宜画像などの資料も使いながら、作者、当時の時代背景、文化など、周辺の事柄も視野にいれつつ、作品をより身近に感じて味わうための要点を示してゆきたいと思います。
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。

回	学習内容
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）
2	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第１幕
3	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第２幕
4	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第３幕
5	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第４、５幕
6	シェイクスピア『夏の夜の夢』第１幕
7	シェイクスピア『夏の夜の夢』第２、３幕
8	シェイクスピア『夏の夜の夢』第４、５幕
9	ドイツの民衆本『ティルオイレンシュピーゲルのゆかいないたずら』
10	シェリー『フランケンシュタイン』①
11	シェリー『フランケンシュタイン』②
12	シェリー『フランケンシュタイン』③
13	メリメ『カルメン』
14	デュマ・フィス『椿姫』①
15	デュマ・フィス『椿姫』②

予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が５回を超えた場合は成績評価の対象外。
実務経験	
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学Ⅱ	今本　幸平	講義	2		2	4

授業概要 授業目的	この講義ではドイツ語圏の文学作品を取り上げます。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学の読み方に正解はないので、皆さんの理解が及ぶ範囲で、等身大の読み方をしてください。講義では文学作品をすこしでも身近に感じてもらえるように、適宜映像などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化などの周辺事情も視野に入れて、作品の紹介をしてゆきます。
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。

回	学習内容
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）
2	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第１部
3	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第２部
4	ドイツの民衆本『ファウスト博士』
5	ゲーテ『ファウスト　悲劇』第１部前半
6	ゲーテ『ファウスト　悲劇』第１部後半
7	ゲーテ『魔王』
8	グリム童話
9	シャミッソー『影をなくした男』
10	ホフマン『砂男』
11	シュピーリ『ハイジ』①
12	シュピーリ『ハイジ』②
13	カフカ『変身』
14	シュリンク『朗読者』第１部
15	シュリンク『朗読者』第２、３部

予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が５回を超えた場合は成績評価の対象外。
実務経験	
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
比較文化論	嶋田 宏司	講義	2		2	4

授業概要 授業目的	西洋近代の美術に学んだ日本の画家たちが、いかにして独自の表現様式を獲得したかについて、印象主義からポスト印象主義、フォーヴィスム、キュビスムの作品を技術と理論を解説しながら、これらに対応する日本の画家たちの作品を観察してゆく。 芸術家は外部から影響を受けながら、表現の個性を確立してゆく。この「芸術的個性の確立」とはどのようなものかということを考える。
到達目標	西洋近代美術史と日本の洋画史との影響関係を理解する。 美術作品の観察から表現内容の把握、その記述までのプロセスを理解し、自身で作品を実見したときに実践・応用できる。

回	学習内容
1	フランス印象主義の起こり
2	印象主義の展開と技術的、理論的側面
3	印象主義と日本の画家
4	黒田清輝
5	ポスト印象主義の展開１　ポール・ゴーギャン
6	ポスト印象主義の展開２　フィンセント・ファン・ゴッホ
7	ポスト印象主義の展開３　ポール・セザンヌ
8	青木繁
9	梅原龍三郎
10	安井曽太郎
11	フォーヴィスム　アンリ・マティス
12	キュビスム１　ジョルジュ・ブラック
13	キュビスム２　パブロ・ピカソ
14	萬鉄五郎
15	学んできた美術史を振り返る

予習内容 復習内容	予習として西洋美術史・日本美術史などの全集を読んでみるのも良いですが、『そのとき、西洋では時代で比べる日本美術と西洋美術』（宮下規久朗著、小学館、2019 年）などの入門的な書籍が便利です。授業で学んだ作品観察あるいは記述の方法を、展覧会や美術館での実見に生かしてください。
教科書	教科書は使用しません。画家・作品に関する資料を配布します。
成績評価	学期末試験で評価します。欠席が 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象外とします。
実務経験	
その他 特記事項	提示する図版資料の制約により、観察する画家あるいは作品が変更になる可能性があります。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
行政学	川上　哲	講義	4		1	1,4

授業概要 授業目的	本講義では主に日本の政治・行政制度の仕組みを解説していく。その際、単に現在の制度がどのような仕組みになっているのかを説明するだけではなく、歴史的にどのような過程を経て現在の制度が形成されてきたのかを重視しながら授業を進めていく。 本講義の目的は受講生が現在の政治・行政制度に対する理解を深め、主権者として地域社会を担っていく基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が政治や行政に関する基本的な知識を習得することも目的とする。
到達目標	①行政学の基本的な理論を理解する。 ②日本の政治・行政の基本的な仕組みについて理解する。 ③日本の政治・行政改革の歴史的な経過を理解する。

回	学習内容	回	学習内容
1	講義概要及び評価方法	16	行政ネットワーク論①　特殊法人と独立行政法人
2	行政学の歴史と理論①　行政学の成立と発展	17	行政ネットワーク論②　業界団体・NPO・審議会
3	行政学の歴史と理論②　アメリカ行政学	18	政策形成と政策立案
4	行政学の歴史と理論③　最近の行政学の理論	19	環境変動と政策立案
5	大統領制の仕組みと特徴　アメリカ	20	中央省庁の意思決定方式
6	議院内閣制の仕組みと特徴　日本	21	予算編成過程と会計検査
7	内閣官房・内閣府・内閣法制局の機能と役割	22	行政統制と行政責任
8	中央省庁の仕組みと役割①　行政組織制度	23	新自由主義思想と新自由主義改革
9	中央省庁の仕組みと役割②　中央省庁の編制	24	戦後日本の政治・社会構造
10	国家公務員論①　任用	25	政治・行政改革史①　中曽根政権と臨調行革
11	国家公務員論②　昇任	26	政治・行政改革史②　細川政権と政治改革
12	国家公務員論③　退職	27	政治・行政改革史③　橋本政権と六大改革
13	官僚制組織論①　上司と部下	28	政治・行政改革史④　小泉政権と構造改革
14	官僚制組織論②　権威と権限	29	政治・行政改革史⑤　安倍政権とアベノミクス
15	官僚制組織論③　第一線公務員	30	講義のまとめ

予習内容 復習内容	初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。 ２回目以降の予習・復習は講義内で指示する。
教科書	教科書は使用せず、レジメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、レポート：70%で評価する。
実務経験	
その他 特記事項	受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。 正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また 1/3 を超えて欠席した場合は単位認定しない。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
地域政策論Ⅱ	南　有哲	講義	2		1,3	3

授業概要 授業目的	農業・林業・水産業といった第一次産業は人間社会の基盤であるとともに、地域経済の基軸でもあるのであって、特に、長大で複雑な海岸線と広大な山林を抱えている三重県のような地域にとっては、特にそのことが当てはまる。第一次産業は自然環境とのかかわりが深いだけに、その在り方によっては自然と人間社会の双方に深刻な問題を引き起こすのであって、その実情と背景について認識することが本講義の目的である。
到達目標	「生物多様性」および「持続可能性」の観点から、日本の第一次産業の現状と問題点について理解を深めていくことを目標とする。

回	学習内容
1	はじめに―生物多様性とは何か
2	生態系サービスとその重要性について
3	獣害問題について―現状の概観、特に三重県について
4	獣害問題について―背景と対策
5	林業を考える―日本林業の現状
6	林業を考える―生物多様性保全における林業の役割
7	外来生物問題―現状の概観
8	外来生物問題について―政府の政策と求められる対策
9	土壌の問題について
10	農業とは何か―農業の本質について
11	農業の多面的機能と生物多様性
12	日本の食料政策と食料自給率
13	工業的農業＝資源・エネルギー多投型農業の光と影
14	水産資源の乱獲問題について―世界的動向の概観
15	水産資源の乱獲問題について―日本における現状と課題

予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け、事前学習を行う。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義で回答を受ける。
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する。
成績評価	毎回小レポート…50%　定期試験…50%
実務経験	
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境政策論	南　有哲	講義	2		1	3

授業概要 授業目的	21 世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは不十分であり、政治に参加する権利を持つ者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義の目標は、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。
到達目標	「環境政策」が必要とされる根本的な原理的・歴史的・社会的背景について理解を深める。特に、現代において最重要とされる「気候政策」については、報道される内容をよく理解し、自らの頭で生活者・主権者として思考し行動できるようになることを目標とする。

回	学習内容
1	はじめに―「人新世」としての現代
2	自然と人間の関係について
3	環境問題の一般的構図
4	環境破壊の人類史―先史時代から中世まで
5	工業化について
6	市場経済と共同体
7	市場経済の必然的所産としての環境問題
8	市場経済と国家――環境政策の必然性
9	南北問題の史的背景―新大陸征服・奴隷貿易・植民地支配
10	南北問題の現状と環境破壊
11	気候政策の国際的展開―気候変動枠組条約と京都議定書
12	気候政策の国際的展開―パリ協定とそれ以降
13	日本における気候政策の展開――旧自公政権期から民主党政権まで
14	日本における気候政策の展開――新自公政権期以降
15	講義のまとめ～「人新世」を乗り越えていくために

予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け学習する。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する
成績評価	毎回小レポート…50%　定期試験…50%
実務経験	
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
統計学	熊澤　大輔	講義	2		1	1

授業概要 授業目的	産業連関表を用いた経済波及効果の計算方法を学びます。産業連関表は社会全体の投入-産出関係を表したもので、様々な経済分析に応用することができます。本講義では、投下労働量（雇用の波及効果）に着目することで、少子高齢化が進む中で十分な医療介護を受けるためには社会全体の労働者をどこの部門にどれだけ配置する必要があるか、といった現代的な課題に答えることが出来る事を学びます。本格的な実証分析はできませんが、Excel を用いて簡易的な投下労働量の計算などを授業後半では行う予定です。授業では、世の中に財・サービスが 2 種類しかないと単純化して、具体的な数値計算からはじまり、代数を用いて方程式から導出する方法について解説します。
到達目標	・産業連関表の読み方を覚える ・産業連関表を用いて経済波及効果や投下労働量が計算できるようになる。 ・Excel での数値計算に慣れる。

回	学習内容
1	イントロダクション（講義の射程、成績評価、経済波及効果とは？）
2	産業連関表の読み方①（取引基本表、投入係数表）
3	産業連関表の読み方②（逆行列係数表、雇用表、経済波及効果）
4	2 部門モデルにおける波及効果の計算方法（財・サービスの波及効果、投下労働量）
5	練習問題①（コーンと油、取引基本表、投入係数表、逆行列係数表、投下労働量）
6	財と労働の配分（コメと酒、労働配分、純生産の取り換え比率、日本の労働配分）
7	代数を用いた 1 部門モデル（必要労働、剰余労働、労働の搾取、マルクスの基本定理の図解）
8	代数を用いた 2 部門モデル①（取引基本表、逆行列係数表、投下労働量、労働配分）
9	2 部門モデルにおける分配の計算方法（剰余生産物、必要労働、剰余労働、搾取率）
10	練習問題②（純生産物の配分、投下労働量単位の取引基本表）
11	現代の諸課題について労働配分から考える
12	中間レポート（授業内に問題を解いて提出、授業資料は自由に閲覧可）
13	Excel を用いた波及効果の計算方法①解説編
14	Excel を用いた波及交換の計算方法②操作編
15	産業連関分析で出来ること

予習内容 復習内容	予習：次回授業の配布スライドを通読 復習：問題を反復練習
教科書	毎回パワーポイントを配布する。
成績評価	中間レポート(50%)　期末レポート(50%)
実務経験	
その他 特記事項	レジュメの配布や出欠管理、レポートの提出などすべて Google の classroom を用いて行います。第 14 回の Excel の授業は情報処理演習室を利用する予定です。

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済原論	田添　篤史	講義	4		1	1

授業概要 授業目的	現在主流の経済学には、個別企業や消費主体の最適化に基づく選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個別の経済主体の単純な合成としては把握せず、独立した一つの総体として取り扱い、経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在している。 本講義では前半でミクロ経済学を、後半でマクロ経済学を取り扱い、その基本的な考え方を理解することを目的とする。
到達目標	①　ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方、分析手法を理解する。 ②　実際に生じている経済問題について、経済学的な分析に基づき自分の意見を持つことができるようになる。

回	学習内容	回	学習内容
1	オリエンテーションー経済学の考え方	16	完全競争市場における余剰分析
2	国民経済計算	17	市場の状態が資源配分に与える影響
3	ミクロ経済学の基本像	18	マクロ経済学の考え方
4	消費者の理論を導くための準備	19	財の総供給
5	限界効用理論	20	消費の決定と財の需要量
6	無差別曲線に関して	21	財市場の均衡
7	予算線の概念と最適消費点の決定方法	22	債権の価格と利子率
8	所得変化と、それに対応する最適消費点の変化	23	貨幣を需要する動機
9	代替効果と所得効果	24	貨幣市場の均衡
10	生産における短期と長期の違い	25	投資の理論
11	平均費用と限界費用についての理解	26	IS 曲線の導出
12	利潤最大化と生産量の決定	27	LM 曲線の導出
13	損益分岐点と操業停止点	28	財政政策の効果
14	独占企業の生産量決定	29	金融政策の効果
15	市場均衡とその安定性	30	経済成長の源泉

予習内容 復習内容	予習：教科書の該当部分に目を通しておくこと。 復習：配布資料および講義ノートに目を通すこと。
教科書	石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略　新・経済学入門塾１　マクロ編』 石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略　新・経済学入門塾２　ミクロ編』
成績評価	毎回の授業終了後に提出するコメントシート:30% 試験:70%
実務経験	
その他 特記事項	

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
日本経済論	鈴木　伸	講義	2		1	1

授業概要 授業目的	この授業では経済学の観点から日本経済の変容を捉えていくことを目的とする。日本経済は 1990 年代を境い目に転換期を迎え、格差拡大に代表されるように様々な課題を抱えている。将来を考えていく上でこうした問題を自分の頭で考えていくことは必要不可欠といっても過言ではないだろう。授業では経済学の分析視角を学ぶとともに、日本経済に関する幅広い論点を取り扱っていく。また日本経済を分析し自らの意見を述べる方法論についても扱っていく。
到達目標	①多様な観点から日本経済について複合的に見ていくことができるようになる。 ②経済学の分析視点を身に着け、日本経済を論じることができるようになる。 ③得た知識と分析枠組みを用いて、日本経済について自らの考えを述べられるようになる。

回	学習内容
1	ガイダンス：日本経済をどう捉えるか
2	世界経済はどこで歪んだのか
3	日本経済の歩み：日本型経済システムの成立と解体
4	平成の「失われた 30 年」と日本経済の構造変化
5	キャッシュレス経済の現状と課題
6	グローバル化は国民を豊かにするのか：変質する自由貿易の理念と通商政策
7	劣化する労働環境と「働き方改革」
8	ベーシック・インカムは社会保障の核となり得るか：現金給付の意義とは
9	国民皆保険制度は本当に持続的か：制度危機の処方箋の検討
10	農山村の内発的発展と財政：林業・木材産業をケースに
11	経済成長・格差・少子高齢化
12	民間非営利組織の営利化、営利組織の非営利化：NPO、 社会的企業、 CSR、 ESG 投資のゆくえ
13	情報化、IoT 時代がもたらす未来社会の「姿」
14	日本経済はどこへ行くのか？（全授業のまとめとレポートの書き方について）
15	ディスカッション：日本経済を論じよう

予習内容 復習内容	予習：教科書を読み、毎授業提出のコメントシートに疑問点を書く。 復習：授業後にコメントシートを提出し、授業で学んだことを提出する。
教科書	小山大介・森本壮亮編著『変容する日本経済（仮）』鉱脈社
成績評価	コメントシートの提出：40%　授業で別途出す課題：20%　最終レポート：40%
実務経験	
その他 特記事項	コメントシートはオンラインベースで行う。また 15 回目のディスカッションはプレゼンをしてもらう予定だが、受講生数等を踏まえ最終的に決定する。